

首都圏から

本拠ホール被災した東響

傷ついた心に 音楽を

哀悼の定期演奏会

国内外で評価が高い東京交響楽団(東響)が、東日本大震災でその本拠地・ミュンヘン・ミュンヘン・ミュンヘン(川崎市幸区)の大きな被害により、苦境に立たされている。震災後の自粛ムードで他ホールも含め13公演が中止され、ミュンヘン復旧のめども立たない。「音楽のまち」を掲げて東響とフランチャイズ契約を結ぶ川崎市も代替ホールの確保など支援に乗り出した。

【井上卓弥】



3月26日、サントリーホール定期演奏会で被災地への義援金を募る東京交響楽団のメンバー。東京交響楽団提供

先月11日の震度5強の揺れで、JR川崎駅西口にあるミュンヘンホール天井の仕上げ材や軽量鉄骨が客席に崩落した。04年オープンの耐震設計ホールだけに想定外の被害だった。大野順二楽団長(50)は「声が出ませんでした。ホールは音楽家の家であり楽器。その空間を失った我々も一種の被災者かもしれません」と話す。ホールはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督のサイモン・ラトル氏らに響きの良さをたたえられ、内外で評価が定着しつつあった。川崎定演の舞台であり、練習にも使われて

いた。

今年、創立65周年を迎える東響は今月、公益性と経営の透明性を認められ、公益財団法人の認定を受けた。雑誌「音楽の友」最新号の「好きな日本のオーケストラ」でも3位にランクインしている。東響は、震災発生当日の公演のほか、3月中の国立劇場の6公演もすべて中止になった。ミュンヘンには余震で立ち入り禁止が続き、専門家の調査もままならない。音楽監督ユベール・スターン氏が母

内外に支援広がる

楽団委員のトロンボーン奏者、宮本直樹さん(54)は「一人の演奏家ができることは限られます。年間170公演を続けてきた我々が演奏できず2週間を過ごし、自らの存在の意欲も深く考えさせられました」と語る。阿部孝夫市長らの助力で定演などの代替ホール探しも急ピッチで進められた。シーズンの最初の今月17日の川崎定演は麻生区の昭和音楽大学アトロ・シオリオ・ショウワで開か

れ、29日の名曲全集シリーズは高津区の洗足学園音楽大学前田ホールを会場とした。共催の市文化財団、北條秀衛理事長は「各音大が全面協力してくれた。東響と一緒に育ててきた『音楽のまち』の灯

は消せない」という。大野楽団長は「わずかかの間川崎市内で日時も変えず代替会場を用意していただいたのは奇跡的なこと」と謝意を表し「ホールが変わっても、我々は音楽家の使命として演奏を続けるしかない。ぜひ聴きにきていただきたい」と力を込めた。支援の動きは海外にも広がった。東響でコンポーザー・イン・レジデンスを務めた現代作曲家、細川俊夫氏(55)が独ベルリン高等研究所で東響の被災状況を話したところ、研究者らから慈善コンサートの声が上がった。独作曲家、ヘルムート・ラッヘンマン氏らが現地時間の19日夜、研究所内で演奏し、東響への義援金を募る。細川氏は「音楽は単なる娯楽や祝い事ではなく、心が傷ついている時に必要なものです。音楽を奏でる東響が直面する困難を知ってほしい」と話している。会場変更の情報は東響のホームページ(<http://www.tokyosymphony.com/>)。



天井仕上げ材などが客席に崩落したミュンヘン・ミュンヘン・ミュンヘンホール。川崎端智子撮影

決行した。前売り券の一部にキャンセルも出たが、当日券140枚を売り満席に近い聴衆を集めた。全員の黙とうで始まった定演は第8曲「ラクリモーサ(涙の日)」が2度繰り返され、東響コーラスと一体の演奏に目頭を押さえる観客もいた。ソリストや楽団員が被災地への義援金を募り、140万円余が集まった。